

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島市指定 第4690100393号		
法人名	医療法人 友志会		
事業所名	グループホーム 良友		
所在地	〒892-0811 鹿児島市 玉里団地 2丁目 5-1 (電話) 099-220-9502		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年4月6日	評価確定日	平成21年4月25日

【情報提供票より】(平成21年 3月20日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤5人 非常勤3人 常勤換算	6.1人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3階建ての	2階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	15,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要 ( 3月 20日現在 )

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83歳	最低 70歳	最高 96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	桑波田内科、大坪歯科、長田外科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

療養型医療施設から移行したホームである。住宅街の中にあり、近くに郵便局やスーパー、コンビニ等があり、地域との交流のしやすいホームである。設置主体が医療機関なので、身体状態の変化が見られた時に、早めに対応ができるため利用者・家族にとっても安心できる体制となっている。職員も介護のベテランが多く従事しており、日々良質のケアへの取り組みがなされているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回がはじめての自己評価及び外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が自己評価を行ない管理者がまとめた。皆で話し合いを行ないながら取り組んで、気づいた点について取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を行い、地域の方々にも参加してもらっている。市との連携も取れているので今後、家族にも参加してもらいながら、より充実を目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年1回開催し、面会時には家族の意見や要望を聞いたりしている。今後も声かけを行ないながら運営にも反映させるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、夏祭り等の行事へ参加したり、中学校の体験学習の受け入れを行なうなどしている。また、近隣の方が花や野菜を届けに訪れ、地域との交流が図られている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でのからしを支えるための事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の夏祭り等に参加して地域との交流を図っている。中学校の体験実習の受け入れも行なっている。近隣の方が遊びに來たり、野菜や花を届けにきたりして、地元の方々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員が自己評価の意義を理解し評価を行なった。評価を通して気付きがあり職員のケアの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で避難訓練やケアに関することの意味を話し合ったりして、サービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、市役所に出かけて行き、担当者といろいろな情報交換を行ないながら、サービスの質の向上にも取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られる家族が多いので、来られた時に必ず個々の生活の様子等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見を聞くように心がけている。面会時には何か要望等がないか声かけを行い、話を聞いて運営に反映させるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員には、利用者との馴染みの関係ができるまで管理者と一緒にケアを行なっている。夜勤も慣れるまで一緒に行い利用者のダメージがないようにしている。また家族には、面会時に紹介をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己研鑽は各自行なっているが、勉強会や外部の研修会に参加していない。	○	研修計画に基づいた研修など、職員の育成に努めることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者や法人内のグループホームとの交流が図れていない。	○	法人内のグループホームや地域の同業者と交流を通して、サービスの質の向上に取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と利用者に来所してもらったり、自宅に何度か訪問したりしながら、職員や他の利用者により馴染めるように、家族とも相談しながら取り組みを行なっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人ができることや、したいことはできるだけ行なってもらっている。また会話の中から身体状況や気持ちを汲み取り、お互いに支えあう関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけを行い、会話や表情・行動等を見ながら、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族から思いや意見を聞いたり、職員で話し合いをしながら、介護計画の作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した計画の見直しを行なっている。状態変化がみられる時は、計画の検討・見直しを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助等、利用者・家族の要望や状況に応じて、多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に診察を行なってもらっている。歯科は訪問診療もある。他科受診も適切な治療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と相談しながら、また、家族の希望を聞きながら話し合いを行なっている。運営者・職員ともよく相談をし、全職員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応等に気をつけながら日々のケアを行なっている。記録や個人情報についての取り扱いにも配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、朝食時間は本人ペースで行なっている。一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者の希望にそって支援できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、同じテーブルで懇談しながら一緒に食べていて、準備や片付けも共に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回は入浴支援を行なっている。本人の希望を聞きながら、いつでも入浴できるように努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ、おしぼりのたたみ等、利用者一人ひとりの役割や楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内のグループホームの訪問や公園、散歩等、職員が交代で外出の支援を行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることへの弊害を理解しており、心くばりながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練では運営推進会議で話し合いを行い、地域の方々へ協力依頼の声かけを行なっている。梅干し・米などを備蓄として準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を聞きながら、栄養バランスにも配慮した献立が工夫され、食事のチェックも行なっている。水分は一日の必要量の目安を取るよう声かけを行なっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画や花が飾られた食堂兼リビングで、テレビや雑誌を見たりしながら、程よい距離感のある共用空間で、居心地よくゆっくりと過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥・位牌・リース飾り・テレビ・孫のおもちゃ等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。